

災害時における助け合いの仕組みづくり



【楠学区】

■世帯数：4,863 世帯

■人 口：12,869 人

■面 積：2.007 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 災害時に支援の必要な高齢者等を対象に調査票を作成。調査票は勉強会を開催し、対象者への聞き取り調査を通じて作成した。
- ・ 対象は、65 歳以上の一人暮らしの高齢者と、75 歳以上の高齢者のみの世帯。
- ・ 自主防災訓練を実施し、延べ約 250 人が参加。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、回覧後自治会ごとに対象者への口頭説明を実施

【アピールポイント】

調査票作成時に、一人ひとり訪問して作成した。個人情報の保護については、訪問の折に丁寧に説明した。

2 きっかけ、背景

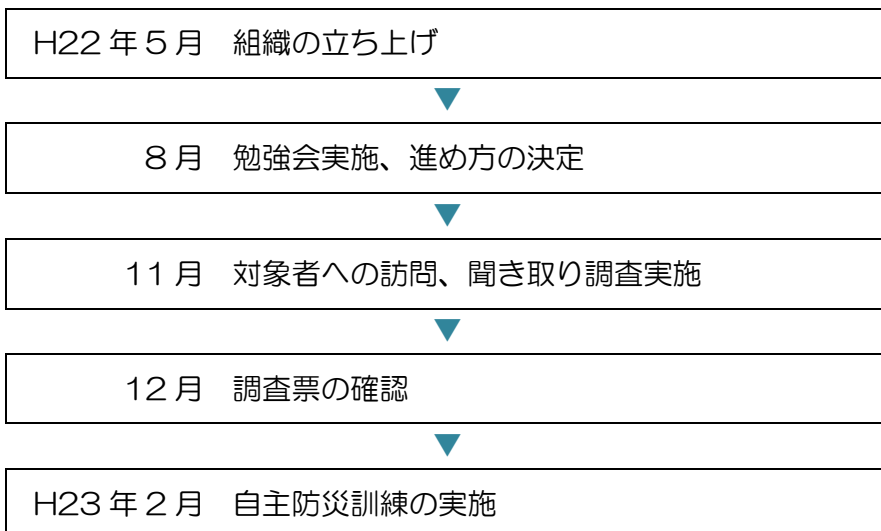
いつ起こっても不思議はない大規模な災害時の助け合いの必要性を感じ、住民との防災に関する情報共有や意識啓発を進め、地域の防災力を高めるために災害時における助け合いの仕組みづくりを実施。

3 実施の体制

- (1) 運営メンバー
区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員
計約 20 人
- (2) 他団体との協力
民生委員児童委員協議会



4 実施のスケジュール



5 成果と課題

- (1) 成果・効果
 - ・ 調査票の作成を通じて、近隣に住む人のことがよくわかった。
 - ・ 防災に対する住民意識が高まり、住民間の交流が深まった
- (2) 苦労した点
 - ・ 対象者一人ひとりに口頭で説明したのが大変であった。
 - ・ 住民に活動への理解を得るのに苦労した。
- (3) 今後の課題・展望
 - ・ 各自治会での担い手の確保が必要である。
 - ・ 学区全体としては、非常時における他団体との協力体制づくりが課題である。
- (4) メッセージ・アドバイス
 - ・ 自助が第一だが、共助の部分は地域の助け合いが一番である。まずは仕組みづくりをできるところから始め、少しずつ要援護者の対象を広げるのがよいと思う。